京都市立白河総合支援学校　　令和８年２月吉日

令和７年度後期学校評価アンケートについて

令和７年度　後期学評価アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。

１２月に実施した前期学校評価アンケートの結果と分析をお知らせします。結果を今後の教育活動に生かしてまいります。

◇実施期間　令和７年１２月１日～１２月１２日
◇対 象 者　白河総合支援学校生徒・保護者・教職員
◇方　　法　・アンケートフォーム（Forms）およびアンケート用紙にて回答
・各項目の「適合度」を４段階で評価
・「そう思う」「大体そう思う」を「肯定的回答」とし、「あまりそう思わない」「そう思わない」を「否定的回答」として分析
◇回 答 率　生徒　９７％　保護者　８４％　教職員１００％
◇分析結果　・百分率で数値を表記
・【確かな学力】【豊かな心】【健やかな体】【独自の項目】について、項目別に対象者別の回答を比較分析
・【服務】については、教職員のみの項目として分析
・肯定的回答８５％以下、否定的回答１５％以上の項目は　で表示
・昨年度との比較で、肯定的回答が５％以上の向上が見られた項目は　、肯定的回答が５％以上の低下が見られた項目は　で表示

【確かな学力】

この項目では、生徒が自分の目標を理解し、その目標に向かって学習に取り組めているか、また、達成度について評価できているか、目標に近づく姿が見られるかについて尋ねています。

分野		教職員	肯定的回答	前期増比	否定的回答	前期増比	保護者	肯定的回答	前期増比	否定的回答	前期増比	生徒	肯定的回答	前期増比	否定的回答	前期増比
確かな学力	1	個別の包括支援プランに基づいて計画的な指導や支援を行なっている	98%	0%	2%	0%	子どもの目標や学習計画に基づく計画的な指導や支援がされている	98%	0%	2%	0%	先生は「何のために勉強するか」をわかりやすく教えてくれる	92%	-3%	8%	3%
	2	生徒や保護者に短期目標と評価、実習の目標と評価を伝えている	100%	0%	0%	0%	短期目標や評価について、学校は保護者に適切に伝えている	95%	-3%	5%	3%	今、現在の自分の目標がわかっている	94%	1%	6%	-1%
	3	生徒が自己目標に一生懸命に取り組める活動を用意している	100%	2%	0%	-2%	子どもは目標に向かって学習に取り組んでいる	92%	1%	8%	-1%	目標に向かって学習に取り組んでいる	95%	-1%	5%	1%
	4	生徒は満足感や達成感をもち、専門科（地域協働）の学習に取り組んでいる	100%	0%	0%	0%	子どもは専門科（地域協働）の授業に満足感や達成感を感じている	94%	-1%	6%	1%	専門科（地域協働）の授業で「できた」「うれしかった」ことがある	92%	0%	8%	0%
	5	生徒は満足感や達成感を持ち、教科の学習に取り組んでいる	93%	-3%	7%	3%	子どもは教科の授業に満足感や達成感を感じている	92%	1%	8%	-1%	教科の授業で「できた」「うれしかった」ことがある	86%	-3%	14%	3%
	6	生徒は満足感や達成感をもち、職場等実習に取り組んでいる	100%	2%	0%	-2%	子どもは職場等の実習に満足感や達成感を感じている	91%	-1%	9%	1%	職場実習で「できた」「うれしかった」ことがある	94%	-2%	6%	2%
	7	生徒の働く意欲や働くために必要な姿勢や態度を育むことができている	100%	2%	0%	-2%	子どもに働く意欲や働くために必要な姿勢や態度が育ってきた	87%	1%	13%	-1%	一生懸命働こうという気持ちや職場で必要な態度が身についている	96%	0%	4%	0%
	8	生徒の学習の結果や努力・達成度を評価し、授業改善・指導法の改善に活かしている	95%	-2%	5%	2%	子どもの努力や達成度が評価されている	94%	-4%	6%	4%	先生は、学習の成果（できるようになったこと等）を伝えてくれる	97%	1%	3%	-1%

すべての質問項目において前期同様８６％以上の肯定的回答が得られました。一方で、前期より肯定的回答がわずかに低下した項目も見られ、改善の余地が示されました。

これまで本校では、生徒が「できたこと」や「頑張れたこと」を実感できるよう、学習のねらいや課題を具体的に示すことで、生徒自身が学びの意味を理解し、主体的に取り組む授業づくりを進めてきました。今後もこの姿勢を継続しつつ、生徒のニーズや実態に即した授業の在り方を改めて検討し、より効果的な授業改善につなげていきます。

また今年度は、生徒が自分自身の目標や課題を明確に捉え、「何のために学ぶのか」という目的意識を持って学習に向かう姿勢の育成を目指し、授業研究を行いました。生徒が「自分の目指す姿」を思い描き、その実現に向けて学ぼうとすることで、学習の目的意識がより明確となり、主体的・意欲的な学びにつながると考えています。そのためには、生徒自身が学習目標を設定し、自己決定した目標に向けて学ぶ力を育むことが重要です。本年度

に取り組んだ授業研究は、来年度も継続します。今後も伝え方や提示方法、教材の選定などを工夫しながら、より主体的に学べる学習環境の整備を進めてまいります。

さらに、これらの取組は、生徒の自己肯定感や自己有用感の向上にも寄与すると考えています。働く生活を目指す生徒にとって、自己有用感である「自分の行動が誰かの役に立っている」という実感は、働き続ける力を支える重要な要素です。また自己肯定感は、社会に出てからの評価や比較、失敗など、自尊心を揺さぶる出来事に対応する力につながります。自己有用感と自己肯定感は一方だけでは不安定になりやすく、両者がそろうことで、仕事や生活の安定感につながるといわれています。学校評価アンケートの結果からも、生徒の自己有用感および自己肯定感の向上は依然として重要な課題であることが示されています。そのため、地域協働による活動など、他者からのフィードバックが直接得られる機会の充実や、自己理解を深め、自らの成長を実感できるワークシートの活用をはじめ、生徒の自己肯定感・自己有用感の向上に向けた取組を今後も積極的に進めてまいります。

【豊かな心】

この項目では、自己肯定感や自己有用感にかかわる内容について尋ねています。

分野		教職員	肯定的回答	前期増比	否定的回答	前期増比	保護者	肯定的回答	前期増比	否定的回答	前期増比	生徒	肯定的回答	前期増比	否定的回答	前期増比
豊かな心	9	生徒の良いところや得意なところを伸ばすことを意識して指導している	95%	-5%	5%	5%	子どもには良いところや得意なことがある	99%	2%	1%	-2%	自分の好きなところや得意なことをよく知っている	90%	-1%	10%	1%
	10	生徒の自己有用感を高めるため、「役に立ちたい」という思いを促すような活動を用意している	93%	-3%	7%	3%	子どもには「誰かの役に立っている」と実感できる学習が準備されている	95%	5%	5%	-5%	自分はだれかの役に立っていると思う	75%	-4%	25%	4%
	11	生徒の自己肯定感を高めるため、生徒の人権を尊重した言葉かけや指導・支援を行なっている	98%	2%	2%	-2%	教職員は子どもの生活年齢や発達段階に応じた適切な言葉かけや指導をしている	97%	1%	3%	-1%	先生はわかりやすく丁寧な言葉づかいをしてくれ、自分のことをわかってくれる	95%	5%	5%	-5%
	12	生徒が友達や仲間を大切にし、お互い認め合いながら、協力し合えるよう指導や支援をしている	100%	4%	0%	-4%	子どもは友達や仲間を大切にし、お互い認め合いながら、協力している	93%	1%	7%	-1%	友達や仲間を大切にし、お互い認め合いながら、協力している	92%	0%	8%	0%
	13	生徒に自分から積極的に挨拶するよう指導や支援をしている	100%	0%	0%	0%	子どもは自分から積極的に挨拶している	80%	-3%	20%	3%	自分から元気よく挨拶ができる	83%	1%	17%	-1%
	14	生徒に学校の決まりや約束を守って学校生活を送るよう指導・支援している	100%	2%	0%	-2%	子どもは学校の決まりや約束を守って学校生活を送っている	95%	3%	5%	-3%	学校のきまりや約束を守っている	95%	6%	5%	-6%
	15	生徒に家庭内で決まった役割を担うように促している	86%	-10%	14%	10%	子どもには家庭で決まった役割があり、実行している	85%	3%	15%	-3%	家庭で決まった役割（例えば、お手伝い）があり、実行している	86%	-6%	14%	6%
	16	全教職員が学校いじめの防止等基本方針の内容を理解し、組織的対応に努めている	100%	2%	0%	-2%										
	17	学校のいじめ対策委員会のメンバーを生徒に紹介している	67%	-6%	33%	6%										
	18	生徒・保護者の訴え（アンケート結果含む）や相談内容を共有している	98%	0%	2%	0%										
	19	保護者や学校運営協議会等に、学校いじめの防止等基本方針や学校の取組を説明・周知している	98%	4%	2%	-4%										

各質問項目において、おおむね肯定的回答は高い傾向にありますが、生徒の『自分はだれかの役に立っていると思う』の項目では肯定的回答が７５％、教職員の『学校のいじめ対策委員会のメンバーを生徒に紹介している』の項目では６７％ と、他項目と比べて低い数値となりました。また、保護者の『子どもは自分から積極的に挨拶している』、生徒の『自分から元気よく挨拶ができる』の両項目では、前期同様に肯定的回答が８０％台前半にとどまり、やや低い傾向が続いています。加えて、家庭での役割活動に関する項目も、保護者８５％、生徒・教職員８６％と、比較するとやや低い数値となりました。

【確かな学力】の分析でも述べたように、『自分はだれかの役に立っていると思う』という項目は、過去数年間にわたり低い傾向が続いており、自己有用感の育成が継続的な課題であることが示されています。本校ではこの課題に対応するため、地域協働活動や産業現場実習など、生徒が他者と関わりながら役割を果たす機会を意図的に設け、自己有用感の育成に努めています。また、授業ではグループワークの機会を多く設定し、他者の意見や考え方に触れる中で、多様な価値観が存在することを理解し、自己理解を深められるよう指導しています。このような経験は、生徒が自分の強みや特性に気付き、自分自身を肯定的に受け止める力の向上につながっています。今後も、学校目標にも掲げている“持てる力を活かして地域社会に貢献”する機会を積極的に設定し、その活動の中で感謝されたり、達成感を得たりする成功体験を積み重ねることで、働く生活に不可欠な自己有用感や自己肯定感の育成を図っていきます。さらに、様々な場面で役割を担うことは、自己有用感や自己肯定感を育む上で非常に重要な機会となります。家庭においても、生徒が“持てる力を活かして”取り組める活動の場を設けることで、自己有用感や自己肯定感の向上につながるとともに、家庭生活の質の向上にも寄与すると考えます。

挨拶に関する項目について、前期同様の結果となりました。学校評価アンケート結果等を踏まえ、生徒から『あいさつ週間』の取組を行いたいとの声が上がってきました。実際の取組では、生徒から『挨拶をして、挨拶が返ってくるとうれしい』『あいさつが自然とできるように、一時的なあいさつ“週間”ではなく、あいさつ“習慣”

になってほしい』などの声が聞かれました。生徒自身が挨拶の価値に気付き、より良い学校づくりに関わろうとする姿が見られたことは、大きな成果です。これまでも、挨拶を通して心地よい人間関係を築き、安心して通える学校づくりを目指し、日頃から挨拶を交わし合う雰囲気づくりに努めてきました。今後も、生徒の主体的な取組を大切にしながら、生徒と教職員が一体となって“あいさつ”の輪がさらに広がるよう、継続して取り組んでまいります。

教職員の『学校のいじめ対策委員会のメンバーを生徒に紹介している』という質問項目については、肯定的回答が低い数値となっており、生徒の認知度が依然として十分ではない状況がうかがえます。生徒が安心して学校生活を送るためには、いじめ対策委員会の存在や役割を生徒に周知し、相談しやすい環境を整えることが重要です。しかし、実際にはいじめ対策委員会のメンバーだけが対応しているのではなく、教職員全員が一丸となって、いじめの未然防止と早期対応に取り組んでいることも本校の実態です。この観点からすると、当該質問項目は、学校全体で行っている安心・安全に向けた取組の内容が結果として反映されにくい可能性も考えられます。本校では、生徒が安心して学校生活を送り、学習に集中できるよう、教職員全員で安心・安全な学校づくりを推進しています。今後も定期的な「いじめ・不登校対策委員会」の開催に加え、心配される事案が発生した際には、迅速かつ適切な対応ができるよう、柔軟な体制を引き続き整えてまいります。

【健やかな体】

この項目では、健康に関することについて尋ねています。

分野		教職員	肯定的回答	前期差比	否定的回答	前期差比	保護者	肯定的回答	前期差比	否定的回答	前期差比	生徒	肯定的回答	前期差比	否定的回答	前期差比
健やかな体	20	生徒に適切な食生活を送れるように指導している	86%	-5%	14%	5%	子どもは朝ごはんをきちんと食べている	86%	-2%	14%	2%	朝ご飯をきちんと食べている	86%	-2%	14%	2%
	21	生徒に衛生に関する指導・支援を行なっている	93%	-5%	7%	5%	子どもは日常的に清潔にしようと心がけている	94%	9%	6%	-9%	清潔にすることを心掛けている（例えば、毎日の入浴や着替え、汗をこまめに拭くなど）	96%	-2%	4%	2%
	22	性と生について、生徒が正しく理解し、適切な行動が取れるように指導・支援を行っている	98%	0%	2%	0%	子どもは性と生の理解を深め、自分の身体を大切にしようとしている	83%	0%	17%	0%	生と性について学習し、自分の身体を大切にしながら生活している	96%	-1%	4%	1%
	23	休日等に実施されている各種スポーツ、文化的催しに参加するように生徒に促している	86%	4%	14%	-4%	子どもは休日にリフレッシュできる活動をしている	87%	-4%	13%	4%	休日は趣味やスポーツ、サークル活動などに取り組んでいる	80%	2%	20%	-2%

この項目においても、多くの質問で前期より肯定的回答が低くなる傾向が見られました。また、保護者の『子どもは性と生の理解を深め、自分の身体を大切にしようとしている』の肯定的回答が８３％、生徒の『休日は趣味やスポーツサークル活動などに取り組んでいる』の肯定的回答が８０％と、前期同様やや低い数値となりました。一方で、保護者の『こどもは日常的に清潔にしようと心がけている』という項目では、肯定的回答が９４％（前年度比＋９％）を示し、大きく改善が見られました。

ここ数年、「朝ごはん」に関する項目の数値が低いことが課題となっていました。しかし、外部講師による講話をはじめとする「食育」の学習に力を入れてきた結果、前期・後期ともに肯定的回答が８５％を超える数値となりました。食の重要性を伝える取組が、生徒の意識変容につながってきたものと考えられます。朝ごはんは、一日の始まりにおける重要なスイッチであり、脳や身体をしっかりと目覚めさせる役割を果たします。集中力・メンタルの安定・学習パフォーマンスの向上など、多くのメリットがあり、食生活が充実することは“質の高い生活”にもつながります。今後も、教科の学習に限らず、学校生活のさまざまな場面で食育の視点を取り入れた指導を継続していきます。

昨年度より新設した『性と生』に関する質問項目については、前期に引き続き、保護者の肯定的回答が８５％を下回る結果となりました。前期の学校評価アンケートを受け、保健室だよりやホームページを通じて『性と生』の学習の取組を発信してまいりましたが、理解をより深めていただくためには、今後も学習内容や取組状況を積極的に発信し、保護者の皆様と学習の意義や内容を共有していく必要があると考えます。また、外部講師による授業の実施など、多角的なアプローチを継続し、『性と生』の学習をさらに充実させていきます。生徒が正しい知識を身につけ、自身の身体の成長を理解し、大切にする態度を育むことを目指し、今後も継続して取り組んでまいります。

生徒の『休日は趣味やスポーツ、サークル活動などに取り組んでいる』の質問項目については、肯定的回答が８０％（前期比＋２％）となりました。依然として高い数値とは言えませんが、令和５年度前期学校評価アンケートで肯定的回答が６０％台であったことと比較すると、生徒の余暇の過ごし方が徐々に充実してきていると考えられます。学校目標にも掲げる“豊かで質の高い生活の実現”に向けては、仕事（Work）と私生活（Life）の双方を健康的かつ充実した状態で両立させる、いわゆるワークライフバランスの視点が重要です。今後も、生徒

が趣味の幅を広げたり、好きなことに没頭したり、余暇を思う存分楽しめる時間を持てるよう、自己理解を深める学習やICTを活用した情報収集の方法を取り入れながら、多様なことにチャレンジしようとする姿勢を育てていきたいと考えています。働く生活と私生活のバランスを意識した生活スタイルを生徒一人ひとりが築いていけるよう、学校として継続的に支援してまいります。

【独自の項目】

この項目では、企業との連携、地域との協働を図りながら進めている学習について、および、情報モラルに関することについて尋ねています。

分野		教職員	肯定的回答	前期差比	否定的回答	前期差比	保護者	肯定的回答	前期差比	否定的回答	前期差比	生徒	肯定的回答	前期差比	否定的回答	前期差比
独自の項目	24	企業との連携・協働による学習環境が設定できている	98%	-2%	2%	2%	企業との連携・協働による学習環境が設定できている	92%	-1%	8%	1%	企業の協力があり、職場実習などができていることに感謝している	96%	0%	4%	0%
	25	地域との連携・協働による学習環境が設定できている	98%	0%	2%	0%	地域との連携・協働による学習環境が設定できている	92%	-2%	8%	2%	地域の協力があり、地域との活動ができていることに感謝している	92%	0%	8%	0%
	26	生徒、保護者、地域、企業等に本校の教育の趣旨や目的を理解できるように伝えている	98%	-2%	2%	2%	保護者として、学校の教育の趣旨や目的を理解している	97%	2%	3%	-2%	地域や企業等、学校外で学ぶ経験をすることで、校内でもより一生懸命に学習することができる	94%	-3%	6%	3%
	27	情報モラルについての指導を積極的に行なっている	98%	2%	2%	-2%	子どもはルールやマナーを守って情報機器やSNSを使用している	92%	5%	8%	-5%	決まりやルール、マナーを守って情報機器（スマートフォンやタブレット）やSNSを使用している	95%	0%	5%	0%

すべての質問項目において、肯定的回答が９０％台と非常に高い評価となりました。本校が大切にしている、校内だけで完結しない“デュアルシステム”による多様な学びの場の設定や、企業・地域と連携した“人・場所・もの”との幅広い学びの機会づくりの中で、生徒が主体的に活動している姿が評価につながったものと考えられます。また、生徒に対する質問項目でも肯定的回答が高いことから、地域や企業との関わりが学習意欲の向上に寄与していること、そして達成感や充実感を得ながら、いきいきと学ぶことができている様子がうかがえます。今後も、幅広い学びの機会を積極的に設け、多様な学びや経験を通して、生徒が自己理解を深め、“なりたい自分”を描きながら主体的に活動できる姿へとつなげていきたいと考えています。

情報モラルに関する質問項目では、前期に保護者の肯定的回答が減少する結果となりましたが、後期は前期比で＋５％となりました。昨今、インターネットやSNS等の普及により、情報の取得や発信が容易になり、他者とのつながりも手軽になった一方で、いじめや闇バイトなど、深刻なトラブルが多発している現状があります。こうした状況を踏まえ、生徒が便利なツールを安全に活用できるよう、情報化社会を生き抜くための“情報リテラシー”や、自身の個人情報を守る“情報セキュリティ”に関する知識の向上を目指して取り組んでまいります。今後も、外部講師による授業の導入をはじめ、さまざまな角度からのアプローチを継続し、生徒が正しい知識を身につけ、情報社会に適切に対応できる力を育んでいきたいと考えています。

【服務の項目】

この項目は、教職員のみの項目です。働き方に関することについて尋ねています。

分野		教職員	肯定的回答	前期差比	否定的回答	前期差比
服務	28	報告・連絡・相談を意識して行い、情報の共有に努めている	100%	4%	0%	-4%
	29	業務や会議の精選を図ることにより、勤務時間の縮減を図っている	88%	-1%	12%	1%
	30	職務の効率的な遂行を心掛けている	98%	2%	2%	-2%

『業務や会議の精選を図ることにより、勤務時間の縮減を図っている』の項目では、前期に引き続き肯定的回答が減少し、８８％となりました。一方で、その他の項目では１００％・９８％と非常に高い数値を示しており、働き方改革の取組が一定の成果を上げていることがうかがえます。しかしながら、勤務時間の縮減という課題については、依然として改善が進みにくい状況が続いていると言えます。これまで、業務分担の見直し、電話対応時間の変更、書類のパターン化・簡略化など、さまざまな改革を進めてきましたが、前期から状況が大きく動かず、硬直状態が続いていることが見てとれます。教職員のワークライフバランスが保たれ、一人ひとりが“働きがい”を感じながら持続的に成長できる環境の実現に向けて、さらなる業務改善と体制の見直しを進めていく必要があります。教職員が日々の生活を充実させ、ウィルビーイングな毎日を送ることは、教育の質の向上にも直結するものと考えます。今後も、教職員が生徒にとって身近な社会人モデルとして、いきいきと働く姿を示せるよう、働く環境の整備を継続して進めてまいります。